

(1) 構成比率

構成比率は、構成部分の全体に対する関係を表すものである。

分析項目	18年度 (%)	19年度 (%)	20年度 (%)	21年度 (%)	22年度 (%)	全国平均 (%)	算式
1 固定資産構成比率	84.5	85.3	82.7	81.5	79.6	90.5	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延勘定}} \times 100$
2 固定負債構成比率 (低いほどよい)	9.7	8.4	9.1	10.0	10.0	34.5	$\frac{\text{固定負債} + \text{借入資本金}}{\text{負債} \cdot \text{資本合計}} \times 100$
3 自己資本構成比率 (高いほどよい)	87.9	90.7	89.0	88.4	88.5	63.8	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債} \cdot \text{資本合計}} \times 100$

(2) 財務比率

財務比率は、貸借対照表における資産と負債又は資本との相互関係を表すものである。

分析項目	18年度 (%)	19年度 (%)	20年度 (%)	21年度 (%)	22年度 (%)	全国平均 (%)	算式
4 固定比率 (低いほどよい)	96.2	94.1	92.9	92.3	90.0	141.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本金} + \text{剰余金}} \times 100$
5 固定長期適合率 (低いほどよい)	86.6	86.1	84.2	82.9	80.9	92.1	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{固定負債}} \times 100$
6 流動比率 (高いほどよい)	633.3	1637.4	951.7	1144.8	1330.9	540.4	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
7 当座比率 (高いほどよい)	632.2	1596.8	940.9	1143.5	1329.9	492.5	$\frac{\text{現金預金} + \text{未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$

(3) 回転率

回転率は、企業の活動性を示すもので、これらの比率は大きいほど資本が効率的に使われていることを表すものである。なお、それぞれの回転期間は回転数の逆数によって示され、2回転に要する期間を表すものである。

分析項目	18年度 (回)	19年度 (回)	20年度 (回)	21年度 (回)	22年度 (回)	全国平均 (回)	算式
8 総資本回転率 (高いほどよい)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	$\frac{\text{総収益}}{1 \text{ 平均}(\text{資本} + \text{負債})}$
9 固定資産回転率 (高いほどよい)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{1 \text{ 平均}(\text{固定資産} - \text{建設仮勘定})}$
10 未収金回転率 (高いほどよい)	8.7	8.1	7.6	7.5	7.6	7.6	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{1 \text{ 平均未収金}}$

(4) 収益率

収益率は、収益と費用とを対比して企業の経営活動の成果を表すもので、その比率は大きいほど良好である。

分析項目	18年度 (%)	19年度 (%)	20年度 (%)	21年度 (%)	22年度 (%)	全国平均 (%)	算式
11 総収支比率 (総収益対総費用) (高いほどよい)	101.8	105.8	105.3	104.3	106.1	105.9	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
12 営業収支比率 (高いほどよい)	97.0	100.0	99.9	100.3	102.3	111.3	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費}} \times 100$
13 営業利益 対営業収益比率 (高いほどよい)	3.00	0.03	0.06	0.32	2.20	10.0	$\frac{2 \text{ 営業利益}}{\text{営業収益}} \times 100$
14 経常利益比率 (高いほどよい)	2.4	6.3	5.7	4.6	6.4	6.1	$\frac{3 \text{ 経常利益}}{\text{営業収益}} \times 100$
15 総資本利益率 (高いほどよい)	0.3	0.9	0.8	0.6	0.9	0.7	$\frac{\text{当年度純利益}}{1 \text{ 平均}(\text{資本} + \text{負債})} \times 100$

(5) その他

分析項目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	全国平均	算式
16 人件費 対総費用比率 (低いほどよい)	% 14.9	% 14.9	% 14.8	% 15.4	% 14.2	% 15.0	$\frac{\text{人件費}(\text{損益勘定所属職員})}{\text{総費用} - \text{受託工事費}} \times 100$
17 人件費 対営業収益比率 (低いほどよい)	% 15.2	% 15.2	% 15.0	% 15.6	% 14.1	% 14.9	$\frac{\text{人件費}(\text{損益勘定所属職員})}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$
18 職員1人当たり 営業収益 (高いほどよい)	千円 69,439	千円 69,439	千円 69,674	千円 64,610	千円 70,316	千円 58,626	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員}}$
19 企業債償還元金 対減価償却費比率 (低いほどよい)	% 82.1	% 82.1	% 12.1	% 9.0	% 9.9	% 68.4	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費}} \times 100$
20 企業債償還元金 対料金収入比率 (低いほどよい)	% 12.9	% 12.9	% 1.9	% 1.5	% 1.6	% 20.2	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{料金収入}} \times 100$
21 企業債利息 対料金収入比率 (低いほどよい)	% 2.0	% 2.0	% 1.2	% 1.4	% 1.5	% 8.8	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$

1 平均 = (期首 + 期末) ÷ 2

2 営業利益 = 営業収益 - 営業費用

3 経常利益 = (営業収益 + 営業外収益) - (営業費用 + 営業外費用)

4 全国平均は「平成21年度地方公営企業年鑑」の法適用企業別全国平均値(給水人口15万以上30万未満)である。